

日興GAMエマージングストラテジー・ファンド (毎月分配型)

追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

交付運用報告書

第108期(決算日2020年2月19日)

第109期(決算日2020年3月19日)

第110期(決算日2020年4月20日)

第111期(決算日2020年5月19日)

第112期(決算日2020年6月19日)

第113期(決算日2020年7月20日)

作成対象期間(2020年1月21日～2020年7月20日)

第113期末(2020年7月20日)	
基準価額	2,244円
純資産総額	994百万円
第108期～第113期	
騰落率	8.7%
分配金(税込み)合計	120円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興GAMエマージングストラテジー・ファンド(毎月分配型)」は、2020年7月20日に第113期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、新興国の債券と通貨およびそれらに関連するデリバティブ取引に係る権利を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっておりましました。ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<352977>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

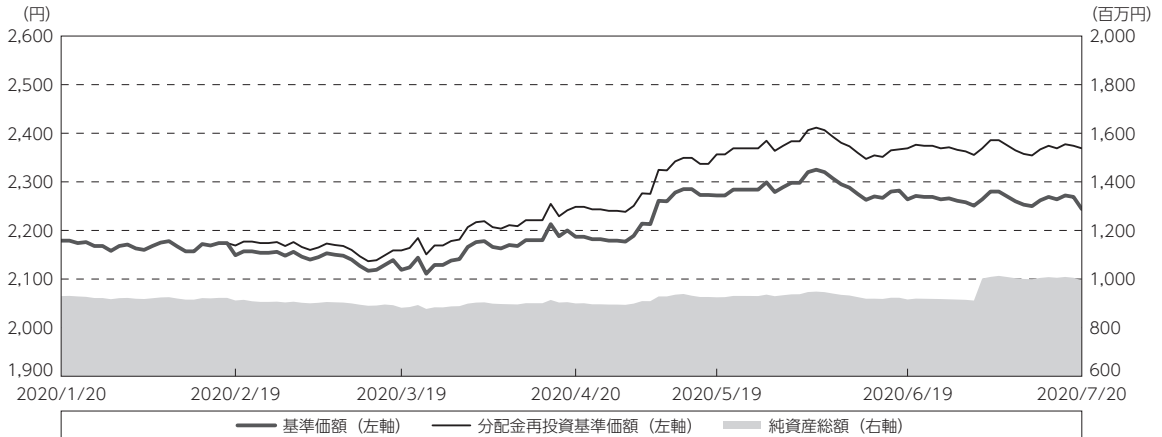
お知らせ

当ファンドは、2021年1月19日に信託期間が終了し、償還を迎える予定です。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2020年1月21日～2020年7月20日）



第108期首：2,179円

第113期末：2,244円（既払分配金（税込み）：120円）

騰落率：8.7%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 （注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2020年1月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

（注）上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、新興国の債券と通貨およびそれらに関連するデリバティブ取引に係る権利を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・トルコリラのショートポジションが利益となったこと。
- ・インドネシアルピアの的確なポジション操作が利益につながったこと。
- ・ロシアルーブルのロングポジションが利益となったこと。

<値下がり要因>

- ・南アフリカ国債のロングポジションが損失となったこと。
- ・韓国ウォンのロングポジションが損失となったこと。

1万口当たりの費用明細

（2020年1月21日～2020年7月20日）

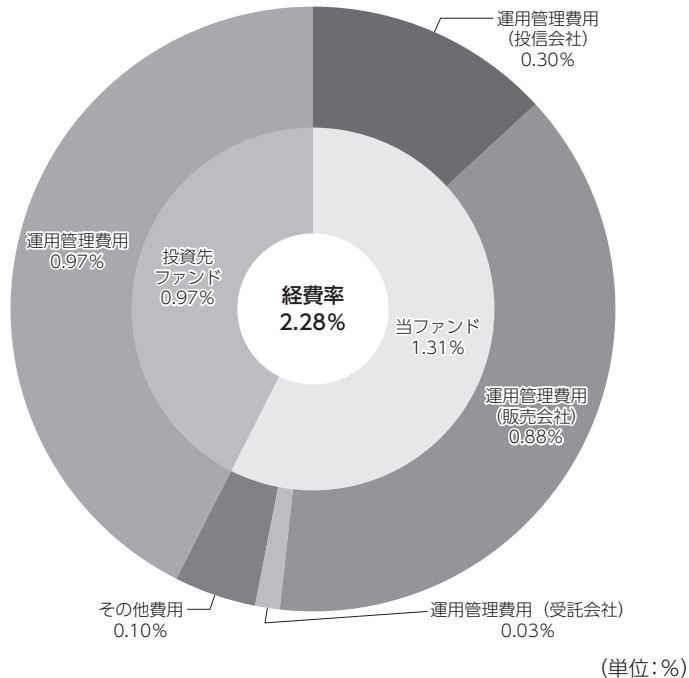
項 目	第108期～第113期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	13	0.602	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	（ 3 ）	（ 0.148 ）	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	（ 10 ）	（ 0.438 ）	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（ 受 託 会 社 ）	（ 0 ）	（ 0.016 ）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.050	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	（ 0 ）	（ 0.002 ）	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 費 用 ）	（ 1 ）	（ 0.048 ）	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（ そ の 他 ）	（ 0 ）	（ 0.000 ）	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	14	0.652	
作成期間の平均基準価額は、2,198円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。
- (注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は2.28%です。



経費率 (①+②)	2.28
①当ファンドの費用の比率	1.31
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.97

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

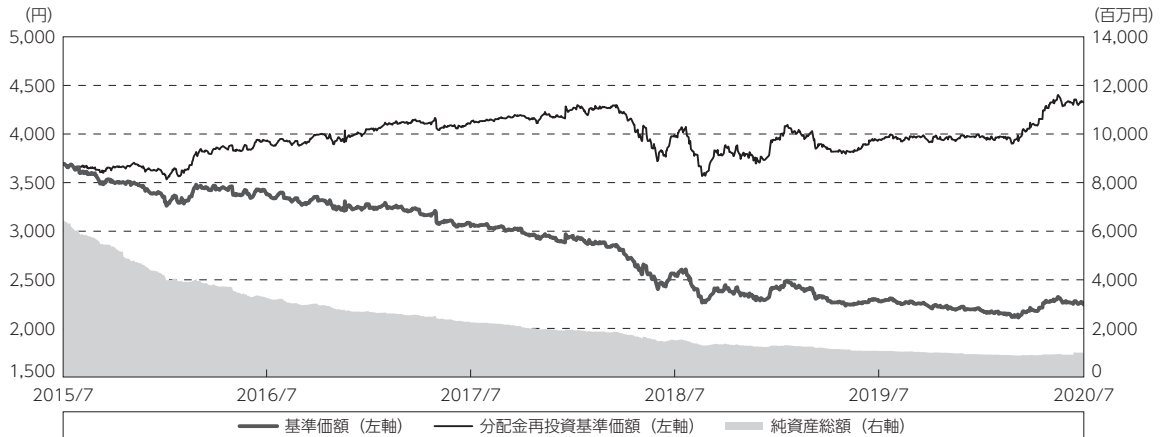
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2015年7月21日～2020年7月20日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年7月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年7月21日 決算日	2016年7月19日 決算日	2017年7月19日 決算日	2018年7月19日 決算日	2019年7月19日 決算日	2020年7月20日 決算日
基準価額 (円)	3,690	3,378	3,050	2,554	2,279	2,244
期間分配金合計(税込み) (円)	—	520	480	420	240	240
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.4	4.8	△ 3.0	△ 1.2	9.7
純資産総額 (百万円)	6,454	3,253	2,241	1,522	1,071	994

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

（2020年1月21日～2020年7月20日）

（エマージング市況）

2020年前半の現地通貨建て新興国債券市場は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う金融市場の急変に翻弄される展開となりました。

2月から3月にかけては、新型コロナウイルスの感染が中国から世界中へ拡がり、ロックダウンに伴う社会生活および企業活動の停止が世界的不況に繋がるとの懸念を引き起こしました。その結果、株式や商品、社債などリスク資産の価格が急落し、債券市場では深刻な流動性危機が発生、現地通貨建て新興国債券相場も主要指数が下落するなど、2008年の金融危機以降最大規模の下げとなりました。

その後、主要国政府・中央銀行がいち早くかつ未曾有の規模の経済・市場救済策を相ついで発表するとリスク資産は底打ちし、さらに5月以降は各国で順次ロックダウン解除が進捗し経済活動再開への期待が高まったことから、相場の反発が継続しました。そうした中、現地通貨建て新興国債券市場も2月から3月の下げを相当程度回復し、リターンのマイナス幅を縮小させています。

（国内短期金利市況）

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの-0.02%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、-0.04%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（TB）3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.13%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、-0.09%近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

（2020年1月21日～2020年7月20日）

（当ファンド）

当ファンドは、収益性を追求するため、「GAMエマージングストラテジー・ファンド」投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アセット・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

（GAMエマージングストラテジー・ファンド）

当期間は、変動性が極めて高く舵取りが困難な相場展開となりましたが、当ファンドは的を射た相場見通しと的確なポジション調整を通じて、プラス・リターンを獲得しました。

2020年3月のリスク資産急落局面では、トルコリラやインドネシアルピア、ブラジルレアルなどを中心とする新興国通貨のショート（売持ち）が大きくプラスに寄与しました。その一方で、ロング（買持ち）としていた韓国ウォンや南アフリカ国債がマイナスに影響しましたが、当ファンドでは、新興国債券が大きく値を下げ、利回り曲線がスティープ化した局面を投資の好機と捉え、メキシコ、ロシア、インドネシアなどの金利ロングを積み増しました。

その後の相場反発局面では、これらの金利ロングポジションがプラスに寄与したほか、原油価格の反発にも支えられて上昇したロシアルーブルのロングも収益に寄与しました。

なお、当ファンドでは、当期間も引き続き新興国通貨のロングに対し、米ドル以外の先進国通貨（オーストラリアドル、カナダドル、ユーロ）をショートとするポジションを活用しました。同ポジションは、リターンの変動性を抑えリスク対比リターンの向上を図ることを目的としています。

（マネー・アセット・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2020年1月21日～2020年7月20日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

（2020年1月21日～2020年7月20日）

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期
	2020年1月21日～ 2020年2月19日	2020年2月20日～ 2020年3月19日	2020年3月20日～ 2020年4月20日	2020年4月21日～ 2020年5月19日	2020年5月20日～ 2020年6月19日	2020年6月20日～ 2020年7月20日
当期分配金	20	20	20	20	20	20
（対基準価額比率）	0.922%	0.935%	0.906%	0.873%	0.876%	0.883%
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	20	20	20	20	20	20
翌期繰越分配対象額	3,790	3,770	3,750	3,730	3,710	3,690

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

（注）投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはございません。

今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、「GAMエマージングストラテジー・ファンド」投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アセット・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

（GAMエマージングストラテジー・ファンド）

足下では経済活動の再開に伴ないマクロ指標も堅調な回復を示していますが、一方で日本や米国などのようにロックダウン解除後に新型コロナウイルスの感染が再び勢いを増す例もみられます。そのため、当面は景気回復期待と感染拡大第2波への懸念との綱引きとなり、この影響で金融市場も変動性の高い状態がしばらく継続すると予想されます。

しかしながら、特に新興国通貨は割安感が強いいため経済活動の正常化とともに上昇が期待され、また当ファンドは投資ユニバースが広く運用戦略の柔軟性が高いことから、上げ局面・下げ局面のいずれにおいても収益機会を見出すことが出来ると考えています。個別国の情勢に対する詳細な調査・分析に基づき、従来の投資方針に沿って機動的な運用を継続する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

（マネー・アセット・マザーファンド）

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

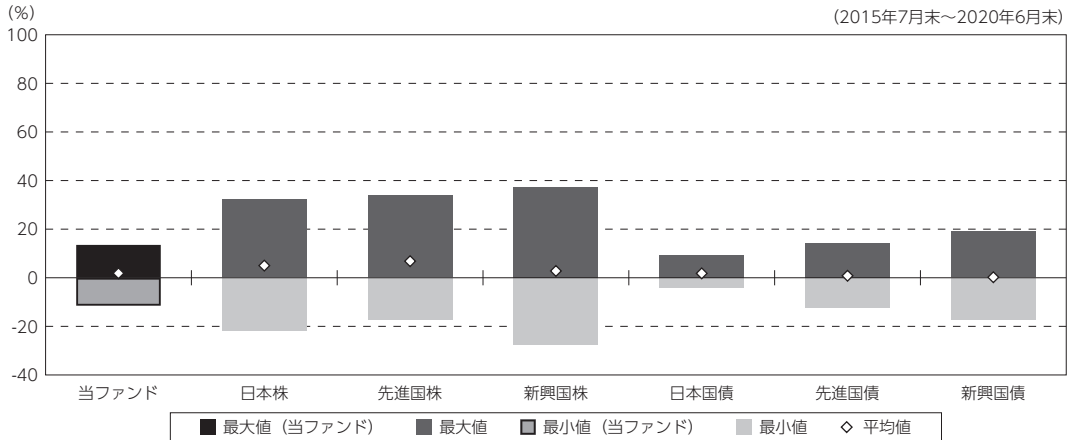
2020年1月21日から2020年7月20日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）
信託期間	2011年2月25日から2021年1月19日までです。
運用方針	主として、新興国の債券と通貨およびそれらに関連するデリバティブ取引に係る権利を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「GAMエマージングストラテジー・ファンド」投資証券 「マネー・アセット・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、新興国の債券と通貨およびそれらに関連するデリバティブ取引に係る権利を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。債券投資については、上昇が見込まれる債券を買い建てます。通貨投資については、上昇が見込まれる通貨を買い建てるとともに、下落が見込まれる通貨を売り建てます。リスクコントロールを行なうことにより、運用資産の損失抑制をめざします。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	13.5	32.2	34.1	37.2	9.3	14.0	19.3
最小値	△ 11.5	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	1.8	5.0	6.8	2.8	1.8	0.8	0.2

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年7月から2020年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX、配当込）

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）

新興国株：MSCIエマーシング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●**東証株価指数（TOPIX、配当込）**は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●**MSCI-KOKUSAIインデックス（配当込、円ベース）**は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●**MSCIエマーシング・マーケット・インデックス（配当込、円ベース）**は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●**NOMURA-BPI国債**は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●**FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）**は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●**JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ヘッジなし、円ベース）**は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

（2020年7月20日現在）

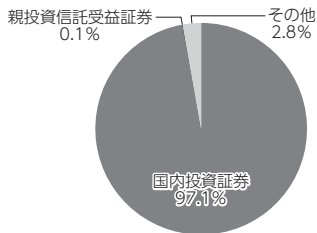
○組入上位ファンド

銘柄名	第113期末
GAMエマージングストラテジー・ファンド	97.1%
マネー・アセット・マザーファンド	0.1%
組入銘柄数	2銘柄

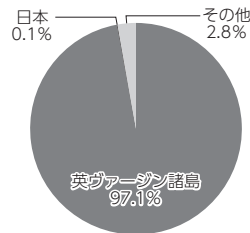
（注）組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注）組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

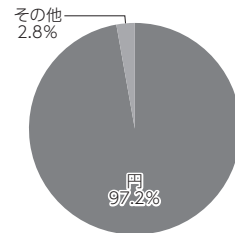
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



（注）比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

（注）国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

（注）国内投資証券には外国籍（邦貨建）の投資証券を含めております。

（注）その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項目	第108期末	第109期末	第110期末	第111期末	第112期末	第113期末
	2020年2月19日	2020年3月19日	2020年4月20日	2020年5月19日	2020年6月19日	2020年7月20日
純資産総額	911,782,735円	881,901,513円	899,679,438円	924,880,439円	915,915,810円	994,274,913円
受益権総口数	4,242,684,166口	4,161,923,567口	4,113,270,632口	4,070,476,676口	4,045,099,198口	4,430,740,032口
1万口当たり基準価額	2,149円	2,119円	2,187円	2,272円	2,264円	2,244円

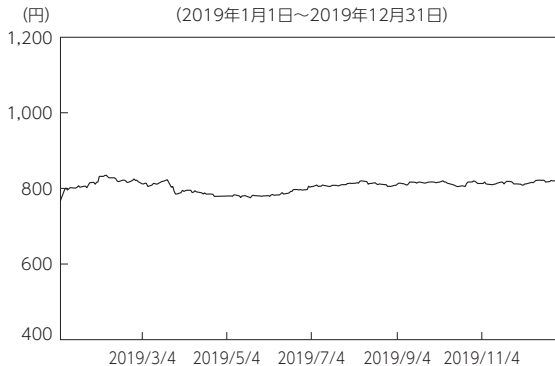
（注）当作成期間（第108期～第113期）中における追加設定元本額は452,575,838円、同解約元本額は289,107,939円です。

組入上位ファンドの概要

GAMエマージングストラテジー・ファンド

【基準価額の推移】

(2019年1月1日～2019年12月31日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月1日～2019年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2019年12月31日現在)

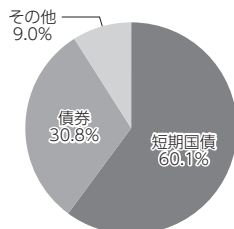
	銘柄名	業種 / 種別等	国(地域)	比率
1	USA 0% 19-05.03.20	短期国債	アメリカ	60.1%
2	EUROPEAN BANK FOR RECONSTRUCTION & DEVELOPMENT 24% 18-10.09.21	債券	国際機関	8.1
3	SOUTH AFRICA 8.875% 15-28.02.35	債券	南アフリカ	6.1
4	EUROPEAN INVESTMENT BANK 0% 17-18.10.32	債券	国際機関	5.3
5	INTERNATIONAL FINANCE CORP 0% 18-22.02.38	債券	国際機関	4.7
6	UKREXIMBANK VIA BIZ FINANCE PLC 9.95% 19-14.11.29	債券	イギリス	4.1
7	SOUTH AFRICA 9% 15-31.01.40	債券	南アフリカ	1.3
8	INTERNATIONAL FINANCE CORP 0% 17-21.11.47	債券	国際機関	1.3
9	—	—	—	—
10	—	—	—	—
組入銘柄数			8銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

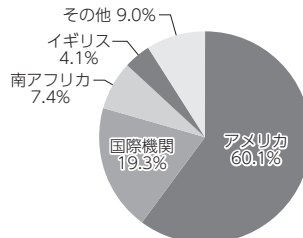
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

必要な情報が開示されておりません。

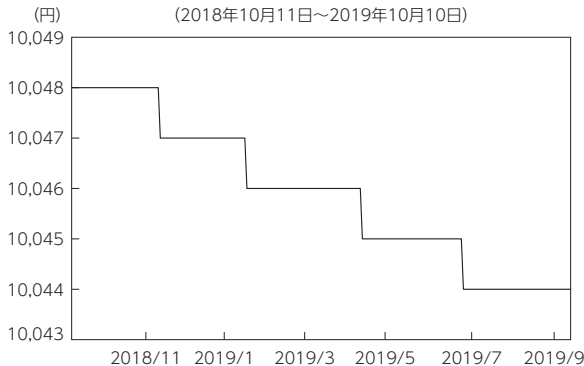
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アセット・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2018年10月11日～2019年10月10日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年10月11日～2019年10月10日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.005 (0.005)
合 計	1	0.005

期中の平均基準価額は、10,045円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2019年10月10日現在)

2019年10月10日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。